

協賛企業


朝日信用金庫


AGC
※7月1日より社名変更しました


Google Japan G.K.


JTB
感動のそばに、いつも。


新日鉄興和不動産


ZENRIN


Tanseisha


dentsu


株式会社 東京ドーム


NIKKEN


野村不動産


HAKUHODO


三井不動産
都市に豊かさと潤いを


三菱地所


株式会社 ムヤマ


安田不動産


YKK®

UP TOKYO を歩く
東京文化資源会議がつくる東京都心北部の新たな魅力
東京文化資源会議は、東京都心北部（東京文化資源区、通称 UP TOKYO）の豊かで多様な文化資源に注目し、その発掘・活用を通じて新たな文化資源の再創造につなげることを目的とする、産官学民の有志からなる任意団体です（2015 年 4 月発足）。
本パンフレットは、その活動の一環として、この地域内のユニークな文化資源を体験できる、ユニークなルートを紹介するシリーズです。

- 「東京文化資源区案内」シリーズ
- Vol.1 江戸・東京の精神文化を紐解く
湯島・神田・秋葉原めぐり（2017 年 4 月 1 日発行）
 - Vol.2 江戸・東京 知の交差路“グレートアーキバ”
秋葉原・神田・神保町めぐり（2018 年 7 月 25 日発行）
 - Vol.3 江戸・東京 水を楽しむ文化都市
上野・本郷・後楽園めぐり（2018 年 8 月 25 日発行）
 - Vol.4 スポーツを遊ぶ！ 近代スポーツ発祥の地をたどる
神田・皇居・後楽園めぐり（2018 年 9 月 25 日発行）
 - Vol.5 つくる・売る・遊ぶ・街 上野ダウンタウン
下谷・御徒町めぐり（2018 年 10 月 25 日発行）

江戸から東京へ都市の変貌

明治維新の变革を乗り越え、「江戸」と「東京」それぞれの文化を引き継いで発展してきた上野・谷中の歴史を掘り下げてみましょう。

1 寛永寺の境内だった上野公園

▶**天海僧正プロデュースの江戸名所づくり**
上野が街として発展したのは江戸時代のことですが、その歩みはいつも寛永寺と共にありました。東叡山寛永寺は、1625（寛永 2）年に天海僧正（1536 -1643 年）によって創建されました。現在の上野公園一帯という広大な土地を有したこの寺は、時の年号を取り寺名を「寛永」とし、京の都を守護する比叡山に対して、徳川家の安全を守る「東の比叡山」として東叡山という山号がつけられました。天海は寛永寺が庶民の行楽地として親しまれる寺院になるよう、山内に景勝地を作ることに注力しました。寺院の主要施設である壮大な伽藍の他に、上野の山の起伏に富んだ地形と水辺空間を利用しながら、京都の清水寺に見立てた清水堂や、琵琶湖の竹生島弁財天に見立てた不忍池辯天堂



『上野東叡山境内』花見の季節に寛永寺を訪れる女性たちの姿。

を建立し、山内の各所には吉野の桜を植え、京都や滋賀の名所を江戸に再現しました。上野の山の伽藍を訪れる人々、清水堂からの景色を楽しむ人々、花見の様子は多くの浮世絵にも描かれています。清水堂から不忍池を見下ろせば、江戸時代の人々が愉しんだ風景の面影を感じることができま

す。

▶**将軍家、公家を擁し、庶民にも開かれた上野の山の大伽藍**
寛永寺は創建当時から将軍との結びつきが強い寺院でしたが、当初は徳川家の菩提寺ではありませんでした。これは当時すでに増上寺という幕府の菩提寺が存在したためです。1643（寛永 20）年に天海が没すると、寛永寺が有していた天海の私的な寺院という性格は次第に変化し、徳川家の官寺としての側面を強めていくこととなります。天海の没後、三代目に当時の天皇の皇子が入山して以降、皇族男性が代々「輪王寺宮」として寛永寺住職を継ぐことになりました。皇族の身分を持つ輪王寺宮を戴くことで、寛永寺は他の寺院とは別格の格式高い寺院としての性格が強めます。さらに、四代将軍家綱の代からは徳川家の菩提寺となり、公的にも徳川家お抱えの官寺としての地位を確立しました。こうした社会的位置づけの変化と共に、寛永寺境内には本堂にあたる根本中堂や山門である文殊楼、仁王門が寛永寺創建から 70 年余が経った元禄年間（1688-1704 年）に建立され、寛永寺は 36 子院、寺地 30 万 5,000 坪余を有する天下の大寺院となりました。現在の上野公園は全域がこの寛永寺の境内地でした。幕末の上野戦争によって伽藍の大部分が失われてしまいましたが、清水堂や五重塔のほか、山門の礎石などは、今でも公園内に見ることができます。



『東都名所 上野東叡山全図』山門から根本中堂にかけての壮麗な寛永寺伽藍の様子。春になると境内には桜が咲き乱れ、多くの参詣者が訪れ花見を楽しんだ。

▶**誰でも学ぶことのできる学校や図書館の開設**
1665（寛文 5）年、了翁道覚という僧侶が修行中に会得した薬を「錦袋円」と名付けて不忍池の池畔に構えた店で売り出したところ、良薬として江戸中の評判を呼び、江戸土産として広く知られるまでになりました。道覚はその収益をもとに經典「一切経（大蔵経）」を購入し、不忍池に



『江戸切絵図』下谷絵図。江戸時代の絵図に寛永寺境内の主要な伽藍が描き込まれていることから、ランドマークとして親しまれていたことがわかる。

島を築いて経堂を建てました。その後 1682（天和 2）年には山内に移して勧学寮と呼ばれる教学機関を建立し、併設の文庫に和漢の書籍を収蔵しました。この文庫は、日本で最初の開架式の図書館のような形式をとっており、宗派に関係なく利用可能かつ一般にも公開されていました。また、遠来者には食事や宿が与えられたといいます。勧学寮はその後増築され、内外の典籍 3 万点余を備える文庫と巨大な寮舎のもと、常時数百名に及ぶ僧徒が勉学に励む一大教育施設となりました。道覚はその生涯に渡り、「錦袋円」の収益から罹災民の救済や捨て子の養育、經典の購入や出版、図書の蒐集、開かれた図書館の開設、土木工事など多岐にわたる事業を行い、当時の人々から敬慕を込めて「如来様」と呼ばれていたといいます。

2 寺町谷中の繁栄

▶**江戸の郊外、参詣と散策の地として栄えた谷中**
さて、ここまで寛永寺と上野山の歴史についてみてきましたが、ここからは谷中に目を向けてみましょう。上野の山の北に位置する谷中は、武蔵野台地の東端に位置する上野台地と根津・千駄木の谷にかけて広がる地域を指します。現在、寺院や住宅が集中するこの地域は、江戸時代初期までは山林地や百姓地の広がる郊外でした。薬生姜の一種として現在も人気のある「谷中生姜」は、江戸時代に現在の西日暮里から谷中にかけての地域が産地であったことからそう呼ばれるようになりました。台地の東斜面に位置するこの地域は、水に恵まれかつ排水も良く、さらに台地によって西日や風が遮られるという特性ゆえに生姜の栽培に適していました。この「谷中生姜」、江戸時代から昭和の頃までお中元の贈答品として用いられたといわれています。今では、谷中で販売用の生姜の生産は行われていませんが、家庭菜園などでつくる人もおり、「谷中生姜」



『江戸切絵図』根岸谷中辺絵図。江戸時代の谷中の様子。画像中央部の赤線で囲まれた場所は寺を示しており、谷中に寺が集中していたことや周辺は多くがまだ田畑であった様子が見て取れる。

の名前にその歴史的な香りを残しています。

▶**谷中の寺町の成り立ち**
1625（寛永 2）年、谷中に隣接する上野の山に寛永寺が建つと、それを契機として谷中にも次々と寺院が建てられました。現在では谷中は 70 余の寺院を有する寺町ですが、江戸開府当初からこの地に存在していたことが確認されている寺院はわずか 4 寺院のみです。慶安年間（1648-1652 年）の江戸の市街地拡張に伴う神田付近からの移転、また明暦の大火（1657 年）により焼失した寺院の移転等によって形成された寺町です。寺院が集中したことで石屋、花屋など寺院に関係した商いを行う店や職人が集まり、寺町としての生活文化が発展しました。

▶**宝くじのルーツ、富突で大繁盛**
谷中の感應寺（現在の天王寺）では、元禄末期（1700 年頃）



『東都歳事記』谷中天王寺富の図。富突の抽選の日には様々な人々が押し寄せ、たいへん賑わいをみせた。

から現在の宝くじのルーツである富突（富くじ）の興行が行われるようになり、湯島天満宮と目黒不動竜泉寺とあわせて「江戸の三富」と呼ばれ人気を博しました。富突の発売日には早朝から夥しい数の人々が購入に押し寄せ、富突の抽選日には野次馬も加わり大変な人出をみせたようです。参拝や富突で多くの人々が訪れるようになると門前には賑やかな茶屋町が形成されました。その後、富突の興行は幕府からの規制を受けながらも 1842（天保 13）年まで続きました。

3 明治維新の激震走る

▶**上野公園の誕生**
幕末の 1868（慶応 4）年の彰義隊ら徳川幕府勢力と新政府勢力との間で起こった上野戦争により、寛永寺は根本中堂をはじめとする主要な建物を焼失し、壊滅的な打撃を受けました。明治維新後、寛永寺の大部分は新政府により没収され、その権威を失いました。1873（明治 6）年には旧境内地が日本初の公園のひとつに指定され、一部は東京美術学校・音楽学校の敷地となります。園内は、日本の近代化を示す文化の発信地として、各種博覧会会場となり、博物館や図書館、動物園などの文化施設が建てられました。このようにして、現在私たちが親しんでいる“文化の杜”としての上野の礎がつくられました。

▶**寛永寺の縮小と残り続けた谷中の寺町**
最盛期には約 32 万坪を誇った寛永寺の寺地は、明治政府によってその大部分を取り上げられ、その後返還された土地は 3 万坪余と往時の一割にも満たないものでした。寛永寺に限らず、国内の多くの寺社が明治新政府による寺社領土地・廃仏毀釈の政策の影響で所有地を失いました。その一方で、谷中では寺領の若干の変更があったものの寺町としての規模を大きく失うことなくこの明治の受難期を乗り越えました。この背景には、庶民信仰が厚く、寺院本堂と切り離して移転することが容易でない墓地を併設した日蓮宗寺院が多かったことが理由といわれています。

4 近代とせめぎあう上野・谷中

▶**国内屈指の芸術拠点となった上野**
1877（明治 10）年に第一回内国勧業博覧会が開催され、1882（明治 15）年には寛永寺本坊跡地に上野博物館（現



「東京大正博覧会」絵葉書、林丈二所蔵。不忍池も会場として使用された東京大正博覧会の様子。

在の東京国立博物館）が開館するなど、明治期以降の上野の山では博覧会の開催や博物館の開館が続きました。また、1887（明治 20）年には後の東京藝術大学である東京美術学校・音楽学校が開校するなど、上野の山は近代芸術文化の拠点へと変貌を遂げていくこととなります。こうして寛永寺伽藍が建ち並んでいた一帯は、博物館や文化施設、東京藝術大学、上野駅へと姿を変えました。寛永寺寺域の多くを公園へと姿を変えた上野の山ですが、今日でも多くの人々が花見や博物館に訪れる様子からは、寛永寺境内地として人々にひらかれていた江戸時代の頃から変わらない雰囲気を感じられます。

▶**芸術家や文豪の行き交う街・谷根千**

上野の山に博物館や東京美術学校が開かれると、それらの近代芸術活動を担う芸術家たちや関連する産業が周辺地域に集まるようになりました。江戸市街周辺部であった谷中・根津・千駄木（通称「谷根千」）地域は、明治以降に市街化し、美術家や工芸家が住居やアトリエを構えるのに好都合でした。池之端の横山大観記念館や谷中の朝倉彫塑館などは、美術家の旧居宅やアトリエを展示施設として転用しています。また、この地域は幸田露伴、森鷗外、夏目漱石などの文豪が住み、数々の名作が生まれた場所でもあります。幸田露伴の『五重塔』や夏目漱石の『三四郎』、江戸川乱歩の『D 坂の殺人事件』など、数々の文学作品の舞台として、谷根千界限の様子が描かれています。

5 歴史の重なりの上になつ多様な地域文化

▶**昔ながらの商店街**
谷中の西側に位置する不忍通り周辺の平地は、明治中頃から住宅地化が進み、主要道路に商店街が形成されました。よみせ通りにはかつて谷田川という川が流れていました。この川は過去には氾濫を繰り返していましたが、明治初期

に暗渠化され、通り沿いに商店が並ぶようになりました。また、日暮里駅近くの「谷中銀座商店街」は全長 175m の通りに約 70 軒の店舗が賑々しく並び、地元の人々の生活を支えるとともに観光客の目や舌を楽しませています。

▶**生活文化を継承する取り組み**
谷中・根津・千駄木は関東大震災や太平洋戦争での被害を免れた場所が多く、江戸からの町割りや道筋、斜面の緑地や寺院が残り、明治・大正・昭和の木造建築が現在に至るまで受け継がれています。1984（昭和 59）年に地域雑誌『谷中・根津・千駄木』が創刊されました。地域の生活文化に光をあてたフィールドワークや聞き書きを積み重ね、編集されたこの雑誌はミニコミ誌の金字塔となりました。この雑誌が作った「谷根千」という名称は、東京の歴史的なまちが残る地域としてひろく浸透し、今日では国内外から多くの観光客がこの地を訪れるようになっています。また「NPO たいとう歴史都市研究会」など地域団体や町会の活動も盛んであり、景観や環境を守る取り組みのほか、地域コミュニティや生活文化を承継する活動も積極的に行われています。変化が激しい東京において、都市の近代化や再開発事業の波にもまれながらも、昔ながらの貴重な街並みや生活文化を守ってきた人々の営みに思いを馳せながらご散策ください。



地元住民のほか多くの観光客で賑わう谷中銀座の様子。

江戸から東京へそれぞれの時代を象徴する空間

上野エリア



江戸時代には現在の上野公園一帯はすべて寛永寺境内でした。震災や戦火をくぐり抜けて今日に残る寛永寺伽藍やその名残をご紹介します。また、旧駅舎や動物園旧正門など、近代的な公園として整備されるなかで建てられた園内の建造物にも目を向けてみましょう。

上野公園 摺鉢山古墳

上野公園の一面に古墳がひっそりと残っています。この古墳は元々は前方後円墳だったようですが、長



摺鉢山古墳の上部は現在広場のような来園者の憩いの場となっている。

い年月のなかで形が変化し丘のような擂鉢型になりました。上野公園内には、この擂鉢山を中心として上野大仏や東京国立博物館内等に複数の古墳がありましたが、施設建設のなかで失われ、現在残っているのはこの擂鉢山のみです。

上野公園 不忍池辯天堂

不忍池辯天堂は、天海僧正が1625（寛永2）年に寛永寺を創建した際に不忍池を琵琶湖に見立て、琵琶湖内の竹生島になぞらえて島を築き辯才天を勧請したのが起源とされています。中国の名勝、西湖にならったとも言われます。清水観音堂から不忍池を眺める人々や辯天堂の参詣客を描いた浮世絵も多く、その様子は今日まで引き継がれています。

上野公園 清水観音堂

1631（寛永8）年に天海僧正によって「擂鉢山」に建てられ、1700（元禄13）年に現在地に移築されました。現存する寛永寺の建造物のなかで最も古く、安政の大地震や上野戦争、関東大震災、東京大空襲などの被害をまぬがれ、創建時から変わらず貴重な建築様式を残しています。

辯天堂付近は春は桜、夏は蓮、そして通年を通してポートを楽しむ人々に賑わい、参道にはしばしば屋台が並ぶ。
撮影／Toshiyuki Udagawa（KANKO LLP）

清水観音堂からは不忍池と辯天堂への参道を眼下に望むことができる。



上野公園 上野大仏

1631（寛永8）年に泥製の大仏が建立されたのが起源で、1843（天保14）年に現在までのこる青銅製の像が作られました。地震でたびたび倒壊や損傷の被害を受け、第二次世界大戦時には金属供出によって胴体部分が失われ、現在では顔部分のみが安置されています。



大仏は頭部のみのため「これ以上落ちることはない」という理由から合格祈願にご利益があるとされる。



五條天神社本殿の様子。

上野公園 五條天神社

医薬の神様である五條天神の歴史は古く、元々は上野の山の「擂鉢山」の場所に位置していました。清水観音堂の建築にともなって移動した後、下谷地域内などを転々としたのですが、1928（昭和3）年に創建の地に最も近い現地に遷座となりました。

上野公園 花園稲荷神社

五條天神と並んで建つ花園稲荷神社は、創建の年代は不明ですが古来からこの地にあったといわれています。花園稲荷で授けられる縁結びの白羽の矢のご利益は江戸時代より高く、善男善女が並んで求めたという記録が残っています。境内には、寛永寺を築いた頃、行き場を失った狐や狸を祀る「穴稲荷」もあり、上野の山の古い姿を伝えています。



花園稲荷神社本殿の様子。



東照宮は震災や戦火を乗り越え、創建当初からの荘厳な雰囲気を出している。

上野公園 東照宮

東照宮は徳川家康を祀っている神社で1627（寛永4）年に造営されました。現存する社殿は1651年（慶安4）年に三代将軍・徳川家光公が造営替えをしたもので、境内に200以上並んでいる石灯笼はそのさいに諸大名から奉納されたものです。幕末の上野戦争や関東大震災、東京大空襲でも焼失や損壊をまぬがれ、江戸時代から変わらぬ威容を誇っています。

上野公園 五重塔

現在の五重塔は1639（寛永16）年に建てられました。神仏分離令の為に明治時代に寛永寺に譲渡され、現在は上野動物園の敷地内となっていますが、東照宮の参道からみることもできます。



五重塔を近くから見るためには恩賜上野動物園への入場が必要となる。

上野公園 恩賜上野動物園旧正門

この正門は1911（明治44）年に建てられたもので、1933（昭和8）年頃まで上野動物園の玄関口として使われていました。左右にあるのは門番の小屋で、切符売り場ものこっています。



園内の一角にひっそりと佇む旧正門。

上野公園 竹の台（寛永寺本坊跡地）

現在は東京国立博物館前の噴水広場となっている竹の台ですが、江戸時代この場所には廻廊がめぐらされた寛永寺根本中堂が建っていました。明治後期に博覧会会場として陳列館が建てられ、震災や戦災の際には多くの住民の避難場所にもなりました。大きな原っぱであった竹の台は近隣の小学校の運動会場や風揚げの場となった時期もありました。

来園者の憩いの場としてだけでなく、催し物会場としても利用され、多くの人々を集める。



上野公園 寛永寺旧本坊表門

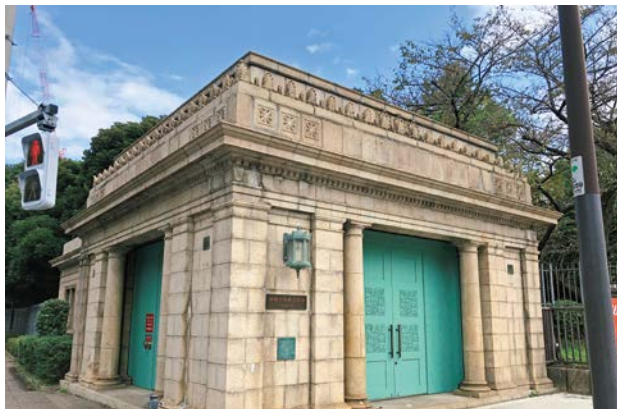
寛永寺本坊は、現在の東京国立博物館の場所に建立されました。しかし、1868（慶応4）年の上野戦争により焼失し、現在はその表門だけが往時の姿を留めています。

上野公園 開山堂（両大師）

寛永寺の開山である天海大僧正と、天海大僧正が尊崇した慈恵大師良源の二人を祀るお堂です。境内には一本の枝に一重と八重の花が同時に咲く「御車返し」の桜の古木があります。

上野公園 旧博物館動物園駅

かつて東京国立博物館の西南端にあった博物館動物園駅は、1933（昭和8）年に京成本線の開通にあわせて開業しました。乗降客の減少や駅舎の老朽化のため1997（平成9）年に営業休止しましたが、2018（平成30）年秋に東京藝術大学の協力で駅舎をリニューアルの後、一般公開されることが決まりました。



東京国立博物館の一角に建つ旧博物館動物園駅。

上野桜木

上野桜木あたり

築80年の日本家屋を改修し、店舗とレンタルスペース、住宅が路地や庭でつながる複合施設です。クラフトビール、オリーブオイルと塩、パンなど、近隣の人にも訪れる人にも飽きのこない食と、地方の食文化を伝えるマルシェなどにも使われる「みんなのろじ・ざしき」は、地域に根ざし、上野桜木の歩んできた時間と空間を受け継ぎながら、新たな創造スペースとして親しまれています。

建物奥へと続く路地空間では谷中ビール片手に語らう人々もみられる。



寛永寺根本中堂の様子。

上野桜木 寛永寺根本中堂

上野戦争でその伽藍や子院の多くを焼失した寛永寺は、寺僧も所払いを命ぜられ、1869（明治2）年まで山内に戻ることも許されなかったといわれています。寺領の大部分は明治政府に接収されましたが、1875（明治8）年に寛永寺復興が許されました。現在の本堂は、1879（明治12）年に川越の喜多院の本地堂が寛永寺根本中堂として移築されたものです。



寺町と芸術、生活文化の歴史をつたえる街

谷中エリア



谷中岡埜榮泉の外観の様子。趣のある店構えは戦後直後に再建されたもの。

谷中は、江戸時代には信仰や寺町、自然の風物を味わう散策の地として、明治時代以降は芸術文化を支え、芸術家や文人が住む街としても愛されてきました。震災や戦災による被害を免れた場所も多く、20世紀半ばの生活文化を今日に伝えています。

谷中 カヤバ珈琲

1938（昭和13）年に誕生した榎場珈琲店は2006年に一旦閉鎖しましたが、存続を望む人々により2009（平成21）年に新たな運営者を得て再オープンしました。大正昭和期の建物や家具を残し、榎場珈琲店の一部メニューも再現して、地域の人や谷中を訪れる人の集う場となっています。



カヤバ珈琲。行列ができることも少ない。



喜久月を代表する川端康成にも愛された「あを梅」と「ゆずもち」。

谷中 喜久月

文豪川端康成や俳人中村汀女、彫塑家の朝倉文夫らが足繁く通ったといわれる1917（大正

下町文化の歩んだ時間と空間を大切にしつつ、最先端の現代アートを伝える拠点となっています。

谷中 傳左衛門めし屋

傳左衛門めし屋は大正時代の町家の一部を当時の風情に寄せて改装してできた和食レストランです。新潟や山形など上野谷中と縁のある地の食材でできた定食を提供しています。2018（平成30）年に開設された、谷根千エリアの風情ある古民家等のリノベーション事業を支援する「谷根千まちづくりファンド」を活用した事例として注目されています。



傳左衛門めし屋の外観の様子。

谷中 谷中霊園

約7,000基の墓を有する谷中霊園は、区内の都立4霊園のうちのひとつであり（他は青山・雑司が谷・染井）、桜の名所としても知られています。元々は天王寺の境内地でしたが、明治維新後に新政府に上地され、1874（明治7）年に公営墓地が開設されました。園内には渋沢栄一や鳩山一郎、鍋島清方といった人物が眠っています。桜並木の通りにあることもひろばには江戸四塔の一つ、五重塔が立っていましたが、1957（昭和32）年の放火心中事件により焼失しました。現在は礎石が残るのみですが、地域では再建を望む声があります。



谷中霊園の桜並木。春には多くの花見客が訪れ散策を楽しんでいる。

谷中 築地塀

観音寺は1680（延宝8）年に神田から谷中に移転した真言宗豊山派の寺院です。瓦と粘土を交互に積み重ねて造られた観音寺の「築地塀」のある路地は、寺町谷中の江戸時代の面影を伝えています。



寺町の風情を今日に伝える築地塀。

谷中 朝倉彫塑館

彫刻家・朝倉文夫の旧アトリエ兼住居です。朝倉は日本近代彫塑界を牽引した一人で、近くにある東京美術学校（現：東京藝術大学）を卒業した1907（明治40）年から、この地にアトリエ、住居、彫塑塾を構え、多くの後進を育てました。今ある建物は1935（昭和10）年に朝倉文夫の設計、指示で建てられました。朝倉の作品のほか、大きな池のある中庭と屋上庭園も見どころです。



朝倉彫塑館入口。建物屋外にも朝倉の作品がある。

谷中 谷中銀座

約70店舗が立ち並ぶ商店街は、昭和の暮らしやコミュニティが残る谷中のシンボルとして知られています。生活必需品店から、菓子や雑貨など観光客を対象とした店舗へと移り変わりつつありますが、近年この周辺で若者によるリノベーション出店も相次いでいます。「夕焼けだんだん」の階段は眺めのいいスポットとして人気です。



谷中銀座入口の様子。



HAGISOの外観の様子。

谷中 HAGISO

築60年の木造アパートを改修したカフェ・イベントスペース・オフィスなどからなる「最小文化複合施設」です。2013（平成25）年のオープン以来、谷中のたてもの再生を代表する存在のひとつになっています。二階は、2015（平成27）年に開業した宿泊施設「hanare」のフロントやラウンジとなっています。

谷中 岡倉天心記念公園

東京美術学校（現：東京藝術大学）の設立に関わり、近代日本の思想・美術の発展に大きく貢献した岡倉天心（1863-1913年）の旧居跡で、1898（明治31）年に創設された日本美術院発祥の地です。六角堂の中の天心像は平櫛田中の作です。



岡倉天心記念公園内の六角堂。

谷中 大名時計博物館

洋服仕立師で陶芸家の上口愚朗（1892-1970年）が生涯にわたって収集した大名時計を展示しています。江戸時代に大名お抱えの御時計師たちが制作した檜時計、尺時計、置時計など様々な大名時計をみることができます。博物館は江戸時代に真島藩の大名屋敷だった地であり、現在は庭園跡の森に囲まれています。

谷中 へび道

「へび道」には、かつて藍染川という川が流れていました。大正の末に暗渠化されたこの川の名前は染物に使われていたことに由来すると言われています。今も谷中から根津へ



へび道の一角。道路が蛇行して「観潮楼」時代から残る森鴎外記念館の大きな池。

抜ける生活路地として地域住民に親しまれ、雑貨店や飲食店も点在しています。

千駄木 森鴎外記念館

明治時代の文豪・森鴎外（1862-1922年）は千駄木で半生を過ごしました。本記念館が建っているのは、鴎外が30年間暮らし、歌会の会場としても使用された旧居「観潮楼」の跡地です。様々な企画展が開催され、鴎外の多才な活動や広い交際関係などに触れることができます。

根津 根津神社

根津神社は1706（宝永3）年に徳川五代将軍綱吉によって千駄木の旧社より遷座され、造営されました。根津権現と呼ばれ、根津の町はその門前町としてつくられました。江戸時代からの名所であり、戦災で被害を受けた社殿は復興されて重要文化財となりました。つつじの名所としても知られ、境内西側の斜面がつつじ苑として整備されています。



根津神社本殿の様子。



「ムラヤマは1902年の創業以来、様々な催事制作を行ってきました。そこで培った**カタチ（施工）**にする精細な技術に、**彩り（デザイン）、品格（演出）、おもてなし（運営）**を合わせて、今後も日本の文化催事の発信と、創作活動に貢献し続けます。」

株式会社ムラヤマ
東京都江東区豊洲 3-2-24
文化発信事業担当 03-6221-0859

ありそうでなかった、
課題発見のシンクタンク。
課題ラボ
Q A D A I L A B

日本にある約5万のNPO。NPOが向き合う現場の最前線にある、まだ誰も知らない課題。皆さんで共有し、皆さんで深掘し、新しい答えの出し方を創造する。そんなラボができました。



参加希望の方はこちらから ▶ <http://www.jnpoc.ne.jp/qadailab>

問合せ：特定非営利活動法人 日本 NPO センター 担当：三本
〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-2-1 新大手ビル 245
E-MAIL qadailab@jnpoc.ne.jp | TEL 03-3510-0855 | FAX 03-3510-0856
主催：日本 NPO センター × 電通 B チーム



NIKKEN
EXPERIENCE, INTEGRATED

日建設計

日建設計は、建築の設計監理、都市デザインおよびこれらに関連する調査・企画・コンサルティング業務を行うプロフェッショナル・サービス・ファームです。グローバルブランドとしてこれまで以上に人々の想いに応え、社会環境デザインの先端を拓いていく決意を込めて、私たちの志を表現したブランドタグライン「EXPERIENCE, INTEGRATED」を掲げました。クライアントの想いや経験、私たちが蓄積した経験を組み合わせながら、世界の人々に豊かな体験をお届けしていきます。

<http://www.nikken.jp>

上野ナイトパーク
構想会議
上野公園周辺エリアでの文化資源活用策の検討を本格化している東京文化資源会議では、「上野ナイトパーク構想会議」（座長：青柳正規 東京大学名誉教授・山梨県立美術館長）を設立し、夜間における上野公園文化資源・施設の全面的な活用策について関係各方面へ提案をおこなっていきます。



東京文化資源会議
住所●〒101-0054 千代田区神田錦町 2-1
TEL ●03-5244-5450 FAX ●03-5244-5452
e-mail ●info@tcha.jp WEB ●<http://tcha.jp>